

今週の聖句

そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた

ルカによる福音書 24章 51節

ねらい

イエスが天に昇られたこと、そのことを通して、時を越え、国境を越えて、主が共におられるお方となられたことを伝えたい。

説教作成のヒント

上記説教例では、伝えにくいですが、手を上げて祝福しながら、天に上げられたというところは、動作をもって、伝えたい。今も、イエスが、私たちが祝福しておられるということを楽しむために。

豆知識

・聖壇布について。

赤は聖霊。次週のペンテコステで用いられる。ほか、結婚式なども。

紫は、王の色。私たちの真の王はイエスという信仰のしるしとして、キリストをお迎えするアドベントや、受難節にも用いられる。

緑は、木々や葉っぱのイメージで、成長を表す。一年で最も長く使われるが、教会暦の特別な日ではない時、信仰の成長を祈りつつ緑の布をかける。

・ルカ 24 章は、ある一日の出来事を綴る形になっている。はじめは、明け方の復活。そして、夕暮れ時のエマオでのこと。そして、弟子が話し合っているところへ、イエスが現れ、魚など食べつつ、きょうの場面へ。興味深いのは、弟子たちの「目」が段階的に開かれていくようす。復活を信じているところから始まり、夕暮れのエマオでも気付かない。しかし、パンを裂いていただいたとき、二人の目が開かれる。そのあと、それでも疑いが消えずにいるところへ、主が現れ、魚を食べさせてみせる。そして今日の個所で、聖書を悟らせるために、心の目を開かれた、と続く。主によって、開かれた信仰の目をもったために、弟子たちは喜びに満たされたのである。

説教

いまから 40 日くらい前の日曜日（6 週間前） 私たちは、ここでイースターの礼拝を守りました。お祝いをして、卵もみんなで食べましたね。

あのイースターの日から、きょうまでずっと続いていることがあります。それは、聖壇に、白い布をかけているということです。

あまり気にしなかった人もいると思いますが、聖壇の色には意味があります。それぞれの色の意味は、またいつかゆっくりお話ししますが、きょうは、白です。イースターからずっと白です。白い色は、いのちとか、復活とか、輝きとか、勝利を意味しています。

だから、イースターの時から今日まで、復活されたイエス様、死に勝利されたイエス様をたたえるために、白い布をかけて礼拝をまもってきました。

それから、実は、教会でお葬式をするときにも、白い布をかけます。誰かが死んでしまうのは、とても悲しいことです。その悲しい気持ちを表すために、御葬式では、みんな黒い服を着ます。でも、教会の聖壇は、白い布をかけます。それは、復活を信じているからです。私たちは、みんな、神さまのもとで、新しいいのちを頂くことを信じています。だから、御葬式の時、教会は白い色になります。

悲しいけれども、すてきな希望を与えられているのです。

きょうは、復活されたイエス様がこの世を離れて、天に昇って行かれた日です。

天にあげられていくイエスさまを見上げながら、弟子たちは大喜びしたと書かれています。大好きなイエス様とのお別れだから、悲しんでもおかしくないのに、お弟子さんたちは、大喜びしました。

お弟子さんたちは、分かったのです。イエスが天に昇って行かれるということは、どこへ行ってもお空があるように、どこへ行っても、イエス様が、だれとでも、どこにいても、いつも天から見守ってくださること、いつもそばにおられることを。

イエス様は、いまも、大きな手を広げて、私たちに微笑みかけておられますよ。

(あとで外に出て、空を見ようね、と言って締めくくるのもよいでしょう)

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

6 番

改訂 9 2 番

話してみよう

・ 大好きな人との別れの体験を共有しよう。

引越しや進学、死別など、これまで体験した「別れ」をみんなで出し合ってみよう、その気持ちとお弟子さんたちの気持ち、どこが一緒に、どこが違う？

・ 飛ばしてもよい風船(自然に帰る成分の)を飛ばしてみて、弟子たちの気持ちを味わおう。

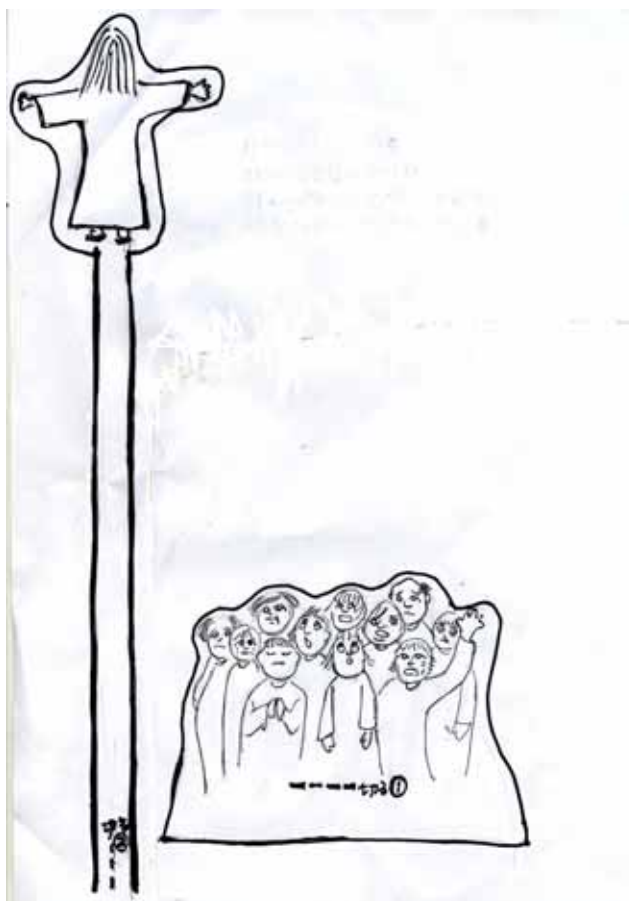
・ お弟子さんたちはイエス様との別れの後、何で大喜びで帰ることが出来たんだろう？

お弟子さんの気持ちを考えてみよう。

・ みんなが体験した別れ、どうすれば「大喜び」で終わる？

やってみよう

- 1) 太線を切り取る
- 2) 「切る」の点線を切る
- 3) イエス様の足の下の細長い所を2)で切った穴に上から入れる
- 4) 「切る」の点線を切り前後に折り、ストッパーにする
- 5) ストッパーのところを持ちイエス様が止まるまで下げる
- 6) 上に向かってスライドさせるとイエス様が弟子たちの前から、天に向かって上がっていく



暗唱聖句

わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください
ヨハネによる福音書 17章 11節

ねらい

祈り、永遠の命、十字架を前にしたときという状況、・・・いろいろ触れるところはあると思うが、「あなたのもの」という一点で、考えてみた。復活節の締めくくりに、主によって贖われた命の尊さを考える機会となれば、と思う。

説教作成のヒント

上記説教例では、人数が少々多い教会学校であっても、最後、一人一人の名前を読んで、きちんと、そのひとりひとりに、「きみも、きみも・・・」と、ひとりひとりが、神さまのものだ、と伝えてほしい。

豆知識

聖書には、逆説的に語られるところがあります。たとえば、「求めなさい、そうすれば与えられる」というみ言葉と同時に、「神さまは祈る前からあなたに必要なことはご存知」、また、「与えられないということは、あなたに必要なでないものと神さまがお考え」とも言います。矛盾ではなくて、どちらも真理です。

第一コリント3章最後のところで、「パウロもアポロもケファも、世界も生も死も、今起こっていることも将来起こることも。一切はあなたがたのもの、あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです。」とあります。結論部は一致しますが、「一切はあなたがたのもの」という響きは、きょうはポイントと違った響きがあります。でも、そこにも真理があります。「私たちは主のもの」という信仰に立つ時、キリストは、そのひとのものになります。信仰がないならば、すべてはその人と無関係です。その人のものになりません。第二コリント6:10「(わたしたちは) 悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のように、すべてのものを所有しています。」

説教

主の祈りは、覚えていますか。

主の祈りは、主イエス様が教えてくださった祈りだから、主の祈りと言います。これからも、心をこめて、いっしょに祈りたいと思います。

さて、その最後のところ、「み国も、力も、栄光も、とこしえにあなたのものだからです」といいます。神さま、すべてあなたのものです、という言葉です。

これは、とても大切なことなのに、私たちは、よく忘れてしまいます。特に、自分の命を考えると、

皆さんのからだ、皆さんの命、これは、だれのものでしょう。「わたしのからだは、わたしのもの。」そう思っている人が、たくさんいます。でも、本当は違います。この体は、神さまのものです。この

いのちは、神さまのものです。「自分の命だから、自分の好きなようにして良い」というのは、ちょっと間違っています。「神さまからお預かりしている命だから、神さまの喜ばれるように生きよう」というのが、正しいことです。

きょうの聖書の言葉は、イエス様がなされたお祈りの言葉が記されていました。

その中に、「彼らはあなたのもです。わたしのものはすべてあなたのも、あなたのもはわたしのものです。」という言葉があります。

イエス様は、すべてのものが天の御父様のものだということを、よくわかっておられました。そして、そのことをみんなにもよくわかるように、はっきりとお祈りしてくださいました。

きょう、ここに来ている　ちゃん、　君、・・・そして、先生も、みんな、神さまのものです。神さまのものだから、神さまがとても大事に思っておられるひとりひとりです。

私たちの命は、神さまとつながっている、神さまの命だということを、きょうはしっかり覚えておきましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

120番

改訂129番

話してみよう

- ・誰かのためにお祈りしたことってある？それはどんなとき？
- ・（天を仰ぐというのは当時のお祈りのスタイルのひとつ）イエス様のお祈りをもう一度ゆっくり読んでみよう。お祈りの中でイエス様が感謝している　こと、お願いしていることはそれぞれ何か書き出してみよう（イエス様が誰のために祈り、どんなことを心配しているのかもあわせて考えてみよう）。

暗唱聖句

渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい

ヨハネによる福音書 7章 37節

ねらい

目には見えない神さまを信じて祈ることと、目には見えない魂の渇き、いやしを重ね合わせながら、子供たちが、しっかり見えざるお方を信じることができるように導きたい。

説教作成のヒント

上記、説教例とは異なるが、たとえば人間の心が渇いているという時、一般的にも言われるが、それは、「愛に飢えている」時がある。イエスを通して届けられた神の愛を知る者は、その意味で、永遠に渇かない水を与えられたと理解できる。

そのように、神の愛を知った者として、教師は、子供たちに、神を信じて生きることが魂を潤しているのだ、ということ伝えてほしい。

豆知識

37節「祭り」は、仮庵の祭りと推測される。一週間に及ぶ祭りだが、その最終日は最大のクライマックスの日。祭司が黄金の桶を持ってきて、その器に、シロアムの池から水を汲む。その水を、ゆっくりと神殿に持ち帰り、神殿に注ぐ。見守っている大群衆は、歓喜の叫び声を上げる。割れんばかりの大歓声。

その時に、イエスは立ち上がり、「渇いている者は・・・」と叫ばれたと思われる。祭りの最大のクライマックスの盛り上がりの中だから、イエスの声など歓声でほとんど聴きとられなかったのではないかと見る注解者もいるほど。

でも、イエスは叫んでおられる。世の喧噪のなかで、どこに「いやし」があるかとキョロキョロする民に向かって、イエスは叫んでおられる。「わたしのもとに来なさい」と。

説教

アジサイの季節ですね。お庭にもアジサイの花がきれいに咲いています。

アジサイは、6月、梅雨の季節のお花です。アジサイは、雨が大好きです。お水をいっぱい欲しが
る花です。

礼拝堂には、お花が活けてあります。きれいに咲いたお花を、切って、花瓶にさしています。花瓶の中には、お水がいっぱい入っています。切られたお花ですが、花瓶の中のお水を飲んでいきます。お水がなかったら、切った後、すぐに枯れてしまいます。

アジサイは、とても水が好きなお花です。アジサイは、いちど切って、花瓶にさすと、ほかのお花よりも、早く枯れます。枯れないようにするには、花瓶のお水だけではなく、霧吹きなどで、上からも水をシュッシュッとかけてやる必要があるのです。

お水がないと、アジサイは、すぐにしおれます。

私たち、人間も、お水がないと生きていけません。特に、これから夏になると、外でちょっと遊ぶ

と、汗をいっぱいかきます。汗をかいたら、水や麦茶を飲みます。そうしないと、熱中症などの病気にかかることもあります。アジサイと同じように、私たちの体も、すぐに渴いて、水が欲しくなります。

それから、体だけでなく、私たちは、心(あるいは「魂」、「心や魂と呼ばれる、見えない部分」などの表現もよいか)も渴きます。体や、のどと違って、心の渴きは、分かりにくいかもしれませんが、でも、心も、渴きます。こころの渴きは、水を飲んでも、止まりません。どうしたらよいでしょう。

イエス様は、「わたしを信じる者は、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる」とおっしゃいました。

イエス様を信じて、お祈りすることを忘れると、私たちの心は、渴くのです。こころのお水はイエス様です。イエス様は、私たちが、礼拝に来て、御言葉を聞いて、お祈りをしていると、聖霊という心のお水をくださると約束してくださいました。目には見えないけれども、そのことを信じて祈る時、私たちの心は渴くことはありません。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

36番

改訂120番

話してみよう

・人は何故「喉が渴くか？」そのメカニズムを解明しよう！

図鑑などを使って、何故人間は喉が渴くのか調べてみよう。そして、何が足りなくなって喉が渴いて、何を飲むと喉の渴きが潤されるのか調べてみよう。

・実際に喉の渴く状況を作って、調べた結果が正しいかどうか確認しよう。

・イエス様が語られる「渴く」は喉のことではありませんが、では何のことを言っているんだろう？みんなは喉以外に「渴く」ことってある？イエス様の「渴き」とあわせて考えみよう。

・聖書のいう「霊」って、喉の渴きを潤す飲み物で言えば何に近いと思う？

やってみよう

「今日は教会の生まれた日です。

教会のお誕生会をしよう！

おめでとうのメッセージを皆で伝え合う

お祝いの歌を歌って、大人の人に聞かせてあげる

聖霊はなかなか見えないので、折り紙などで赤い花を作り、頭の上からまいて降らせる
など」

暗唱聖句

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

マタイによる福音書 28章 20節

ねらい、説教作成のヒント

「わたしはあなたがたと共にいる」の知らせが、弟子たちを勇気づけたこと、そして、私たちにとって、何よりのプレゼントはインマヌエルであることを、喜びを持って伝えたい。

豆知識

ものを書く時、著者は、伝えたいことをどのように伝えるか。気をつけることの一つに、その書き出しと結びがあろう。そこを見れば、著者の言いたいことが凝縮されていることがある。マタイ福音書は、でだしに系図を記したあとヨセフへのインマヌエル預言をもって書き始める。そして、結びがこの個所。イエスによる弟子たちへの最後の約束は、やはり「わたしは共にいる」なのである。ここだけを見ても、マタイがイエスの福音を語ろうとするときに、どこに確信を見出していたかが分かる。ちなみに、マタイ福音書の真ん中には18章20節がある。確認してほしい。

説教

「ねえ、消しゴム貸して」

「そこにあるエンピツを取ってちょうだい」

私たちは、だれかから、何かを頼まれることがあります。

お父さんやお母さんから頼まれることもあるでしょう。

「ちゃん、ちょっとお買い物に行つて来て。」

「お留守番していてね」

それから、幼稚園や学校では、先生から頼まれることもあります。

「黒板の字を消しておいてください」

「お休みした 君にプリントを届けてください。」

みんなも、いままでにいろいろなことを頼まれたことがあるのではないのでしょうか。

さて、きょうの聖書の言葉を読むと、そこにはイエス様がお弟子さんたちに頼まれたことが書かれていました。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。」

いろいろな人たちに、イエス様のことを伝えなさい、ということでした。

きっとお弟子さんたちは「これはたいへんなお仕事だな」「ちょっと無理じゃないか」「何から始めたらいいのだろう」と思ったと思います。

とっても大変なことは、イエス様もよくご存知でした。でも、悲しんでいる人、助けが欲しい人、自分は一人ぼっちだと思っている人、・・・そんな人たちのことを思うと、イエス様は、助けてあげたい、あなたはひとりではないよ、わたしはそばにいるよ、と伝えたい、と思われたのです。

イエス様は、お弟子さんたちに頼まれただけでなく、約束もしてくださいました。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」

このお約束があったから、お弟子さんたちは、勇気ももらいました。お弟子さんたちは、もう、何から伝えたらいいのか、分かりました。

「イエス様は、いつもあなたのそばにおられるのですよ」お弟子さんたちは、このことを、たくさ

んの人に伝えました。

私たちも、そのことを、誰かに伝えられたら、うれしいですね。神さまに祈りましょう。

分級への展開

さんびしょう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

35番

改訂124番

話してみよう

・聖書以外が伝える「世の終わり」にどんなものがあるか調べてみよう。

また、聖書が語る「世の終わり」について、聖書を調べてみよう(黙示録など)。

・みんなが考える「世の終わり」ってどんなもの?

それはいつ? どうやってやってくる?

・科学の実験を通して三位一体を体験しよう!

氷の入ったコップと、水の入ったコップと、水の入った霧吹きを用意します。

それぞれに「父」「子」「聖霊」のラベルを貼っておきます。

氷を暖めると水になります、水を温めると水蒸気になります(霧吹きで水を空気中に散布) 水蒸気を冷やすと水になります(霧吹きをガラス板に吹きつけ水滴をつくります)。「このように神様とイエス様と聖霊は、あるときは水となり、あるときは氷となり、そしてあるときは水蒸気となって、いつも私たちと共にいてくださる。」ということをお伝えしましょう。

やってみよう

6月第3くらいになると雨の季節になってきます。

毎日毎日、雨がしとしとと降るとみんなどう?

イヤだなんて思うことを水色の紙に

うれしいなんて思うことをピンクの紙に

書いて、カサに入れてね。

みんなの気持ちを発表します。

「学校行くときぬれる」

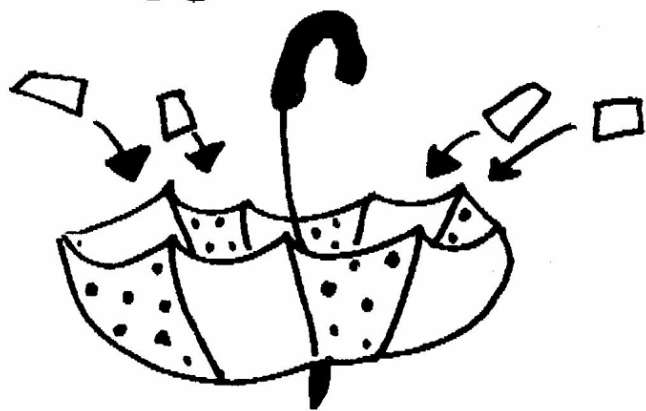
「きれいな体育がある」

「お母さんはせんたく乾かないという」

「外であそべない」

「遠足がなくなる」

みんなですこし話し合ってみましょう。



自分のつごうがでてくるのが、雨が降るのは人間の都合ではないことを知らせる。神さまが必要と
思うから・・・

暗唱聖句

わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである	マタイによる福音書 9章 13節
-----------------------------------	------------------

ねらい

変則的に、結びを2種類用意してみた。ひとつ目は、少し短くしてある。幼児が多い教会学校なら、こちらが良いだろう。そこでは、ねらいは一点。どんなときでも、イエス様のところ(教会)に行こう、つながり続けよう、というメッセージ。

ふたつ目の結びは、そこにとどまらず、むしろ、わたし(たちひとりひとり)のもとに来てくださるイエス様の臨在を、鮮やかに思い起こすことを、福音として伝えるものである。

説教作成のヒント

ひとつ目に関して言えば、うれしい時も、悲しい時も、何も無い時も・・・いつでも、神さまのことを思い起こすよう、導きたいということ。

ふたつ目に関しては、私たちがいかようであれ、主は私たちを受け入れ、愛してくださる方であること、「いまも、あなたのところに！」という、福音を伝えられれば、と願う。

豆知識

13節の、二重かっこで引用されているのは、旧約聖書のホセア書6章6節。この御言葉は、神殿崩壊後(後70年)のユダヤ教で大きな役割を果たしていた。それは神殿がなくなり、犠牲祭儀をささげられなくなった状態を説明するのにふさわしい言葉だからである。

神のもとに携えていくものを持っていない貧しさや弱さの中で、神は私たちが(目に見えるもの、見えないものを含めて)何かを持って行くのを期待しておられるのではない。究極的には、ただ、神によりすぎる思いを携えていくことを待っておられる。詩編51編18-19節も参照されたい。

いけにえは、言い換えれば、神さまにほめてもらおう、認めてもらおうとしてもっていくもの。それはいらぬ。私たちが何も持って行かなくてもいいように、イエスがしてくださった。むしろ、何かを持って行くことをやめなければ、イエスによるめぐみの福音は受け取ることができないのである。

説教

みんなは、どういう時に、お医者さんのところに行きますか？

おなかが痛い時。お熱がある時。かぜを引いた時。けがをした時・・・そんなときに、きっとお医者さんのところに行くと思います。

「よおし、きょうは、すごく体の調子がいいから、病院へ行こう！」と言う人はいないでしょう。「とても健康だから、きょうは、学校から帰ったら、お医者さんのところに行こう」と言う人もいないでしょう。

体の調子が悪い時、どこかを治してほしい時に、病院に行きますよね。

そういう時に、お医者さんが必要になるのです。

教会(あるいは「イエスさまのところ」)には、どんな時に行くのでしょうか。

礼拝の時に、行きます。それから、お祈りする時、行きます。うれしいことがあった時、悲しいことがあった時、そして、何も無い時も、どんな時でも、私たちは、教会(あるいは「イエスさまのところ」)に行きます。いつでも、イエス様は、私たちを待っておられます。ずっとつながっていることが、いちばん大切なことです。

でも、ときどき、ひとは、それを忘れてしまうのです。

「わたしはふまじめで、悪い人だから、神さまのところには行けません。」

「もうちょっと、いい人になったら、教会（あるいは「イエスさまのところ」）に行きます」

「わたしは、洗礼も受けていないし、聖書のことも分からないから、教会なんて・・・」

これは、おかしいですね。神さまはいつだって、どんなときだって、私たちみんなのことを、待っておられるのですから。

結び1 「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。」とイエス様はおっしゃいました。これからも、イエス様としっかりつながるために、教会に通いましょう。

結び2 .そして、忘れてならないことがもうひとつ。神さまは、私たちのもとに来てくださるということです。神さまは、私たちが来るのを待っておられるだけでなく、反対に、イエス様を送ってくださいました。あの日も、イエス様は、みんなから嫌われていたマタイさんという人のところに来てくださいました。そしていっしょに食事までなさいました。町じゅうの嫌われ者だった人たちも喜んで、たくさん集まりました。どんな人も、イエスは大切に思ってくださいし、どんな人のところにも、イエスさまは来てくださるのです。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」というみ言葉を、忘れずにいたいですね。

分級への展開

さんびしよう

53番

改訂119番

話してみよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

・一枚の模造紙を半分縦に折り目をいれ、左側に色んな職業を書いてもらいます。

その右側に「その職業が成立するために必要な人（病人とか犯罪者とか家がほしい人等）を書いてもらいます。そして、もう一枚の模造紙も同じように半分縦に折り目をいれ、真ん中あたりに「イエス様」と書きます。みんなて話し合って右側に可能な限りの「イエス様を必要とする人（罪人、病人、さびしい人等）を書いてみましょう」

やってみよう

「私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

マタイを弟子にする箇所。今日は歌で12弟子の名を覚えましょう。

大人も一緒にあらためて確認しましょう！

ふくいんこどもさんびかより 13番

12 でのなまえ

These were twelve disciples
Annas
George A. Mizok

ベテロとアンゲレ、ヤコブとロハム、ペリボと
トマスとマタイたち、ヤコブとアルガイ、
レオンとユダ、バルトロマイが、しゅうにでし
でしたちは、イエスさまのおてつだい
せしたの、で、す、を、い、た、し、ま、し、う。